

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	63人	算数	63人	理科	63人
第5学年	国語	70人	算数	70人	理科	70人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

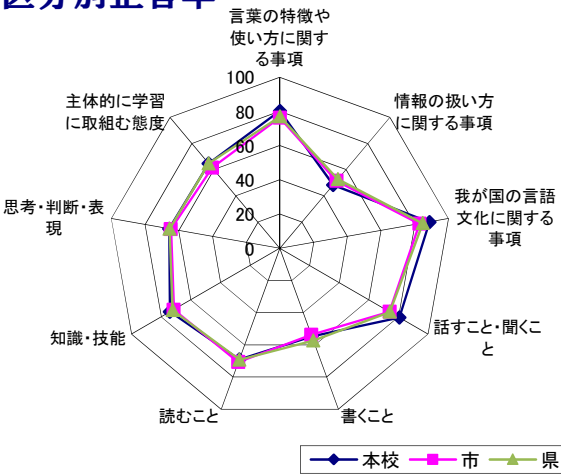
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	80.3	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	48.4	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	88.7	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	80.6	74.1	74.2
	書くこと	54.6	53.7	57.2
観点	読むこと	69.1	70.7	69.2
	知識・技能	74.1	71.6	72.3
	思考・判断・表現	65.6	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	64.8	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

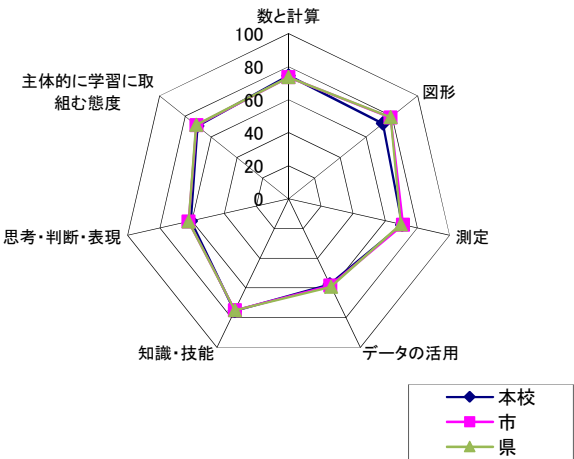
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○平均正答率は、県・市の平均を上回っている。 ●漢字によっては、読み書きの正答率が県の平均を下回っているものがある。	・間違えやすい漢字の読み書きを把握し、漢字を日常的に文章の中で使用するよう意識させることで、定着できるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	●全ての問題において、平均正答率は、県・市の平均を下回っている。 ●国語辞典の使い方や、情報と情報の関係についての理解が課題と言える。	・分からない言葉を国語辞典で調べる習慣を身に付け、国語辞典を使うことに慣れさせる。 ・前後の文章の書き方に合わせて文を考えることを意識させながら、授業に取り組んでいく。
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は、県・市の平均を上回っている。 ○漢字のへんやつくりの理解度は高い。	・漢字を習う際に、へんやつくりについて触れていく。
話すこと・聞くこと	○全ての問題において、平均正答率は、県・市の平均を上回っている。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉えたり、自分の考えを理由を挙げながら話したりすることが、よくできている。	・今後も、国語の学習に限らず、学校生活の中での話し合い活動を充実させ、話し合いの仕方や意見の述べ方等を、さらに身に付けさせていく。
書くこと	○平均正答率は、市の平均を上回っている。 ●条件に合わせて文章を書くことの正答率が、全体的に低い。特に、2段落構成で文章を書く問題の平均正答率が、県の平均より5.3ポイント低い。	・段落の役割を確認し、自分の考えを、いくつかの段落に分けて表現させる活動を、日常的に取り入れていく。 ・書き方のパターンやルールを反復練習で身に付けさせる。
読むこと	○文章を読んで感じたことや考えたことを共有したり、叙述を基に段落の内容を捉えたりすることは、できている。 ●文章の中から、中心となる語や文を見つけて要約する問題の無回答が多い。	・話すこと・聞くことの問題においても、話し手が伝えたいことの中心を捉えることはできている。しかし、説明文等において、話の内容を要約することに関しては、キーワードに目を向けて考える力が付いているとは言えないので、今後も授業において意識して取り組んでいく。

宇都宮市立陽東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.6	73.5	73.6
	図形	73.1	79.0	79.1
	測定	70.6	71.1	69.8
	データの活用	57.5	58.4	59.2
観点	知識・技能	75.4	75.0	75.0
	思考・判断・表現	60.8	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	70.7	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

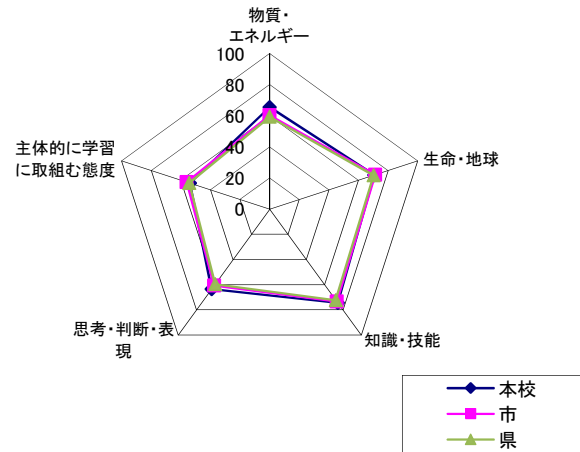
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、県・市の平均を上回っている。 ●大きい数の位取りの問題と分数の数直線上での表し方の問題では、平均正答率が県平均より10ポイント以上低い。 ●かけ算の筆算に出てくる数字の意味を問う問題では、正答率が33.9%に留まった。	・ドリルやプリント、AIDリルに繰り返し取り組むことで、さらに正確に問題を解く力を付けていく。 ・かけ算の筆算に出てくる数の意味を十分に理解できず、誤答した児童が多かったので、式が表している数について、言葉や図を使って記述したり、考えや説明を聞いたりする学び合いの場を工夫していく。
図形	●全ての問題において、平均正答率は、県・市の平均を下回っている。 ●正三角形の作図について、平均正答率が県平均より12ポイント下回っている。	・円や球の直径や半径など、基本的な事項を確認し、基礎学力を定着させる。 ・コンパスや定規を使った作図の仕方を確認し、道具を使うことに慣れさせる。
測定	○時刻と時間については、全ての問題で、平均正答率が県の平均を上回っている。 ●長さ・重さの問題では、平均正答率が全体的に県の正答率より低い。単位の仕組みについては、平均正答率が県平均より8.2ポイント下回り、できる・できないが二極化している。	・正答率が高い集団と低い集団とに二極化している傾向にあるので、児童同士で教え合う場を作り、双方の学力の向上をめざす。 ・生活と結び付けながら、距離や長さ、重さを意識する場面を多く取り入れて、距離や長さ、重さの単位のイメージをもたせ、理解させていきたい。
データの活用	○複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み取る問題について、平均正答率は、県・市の平均を上回っている。 ●棒グラフの基本的な読み取り問題について、平均正答率が県平均より下回っている。	・別々に書かれた2つのグラフを比べる時の、注目すべきポイントを確認する。 ・問題文で聞かれていることは何かを問うことで、問題文を正確に読み取れるようにする。

宇都宮市立陽東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	65.4	60.2	59.2
	生命・地球	70.7	71.3	70.3
観点	知識・技能	74.4	73.4	72.3
	思考・判断・表現	63.5	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	53.9	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○全ての問題において、どの正答率も県の平均を上回っている。 ○平均正答率は県の平均を6.2ポイント上回っている。 ○磁石の問題では、磁石に付く物を答える問題で8.7ポイント、磁石の極を確かめる方法を答える問題で15.9ポイント上回っており、理解度が高い。 ●物の重さについての正答率が低い。特に実験の結果と日常生活とを結び付けて理由を説明する問題の正答率が16.1%で、県よりも0.4ポイント低い。	・学習したことが実際にどう社会で生かされているのか、自分たちの生活と結び付けて考えさせることで、さらに理解を深めていく。 ・理由を説明する問題の正答率が低いので、実験や観察前の課題作り、実施後の考察において、児童が自分で考え、まとめる時間を十分確保していく。 ・学習したことを日常生活と結び付けながら考えられるよう、授業の中でも意識していきたい。
生命・地球	○正答率は県・市の平均とほぼ同じである。 ○自然の観察において、記録カードの内容をもとに共通点、差異点を見付ける問題では、県の平均より12.1ポイント上回っている。 ○モンシロチョウがキャベツに卵を産む理由を説明する問題は、県の平均より8.5ポイント上回っている。 ●虫めがねの正しい使い方が9ポイント、ダンゴムシの特徴についての説明が7.6ポイント、太陽の動き方から影の位置を推測する問題が14.3ポイント、県の平均より下回っている。	・今後も、実験や観察等の体験的な学習を、充実させていく。 ・観察や実験が与えられたものでなく、児童自らが課題を立て、自分事にしていく授業の組み立てを考えていく。

宇都宮市立陽東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習に対する取組が意欲的である。特に「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」は県の平均より6.4ポイント高く、「家で学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」は県の平均より4.7ポイント高い。また、「学校の宿題は、自分のためになっている」という項目は、県の平均より4.4ポイント高く、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の項目は8.2ポイント高い。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」は9.5ポイント、「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」は12.3ポイント、県の平均より高い。

○授業形態、学級経営に関する質問で「グループでの話し合いに進んで参加している」「授業では自分の考えを発表する機会があたえられている」では肯定割合が5ポイント以上高く、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」では、10ポイント以上高かった。「クラスは発言しやすいふん囲気である」は9.1ポイント高い。日々の授業や自分のクラスに満足している児童が多い。

○「学級活動の時間に、友達同士で話し合ってクラスのきまりなどを決めている」「学校のきまりを守っている」「学校での役わりや係の仕事にせきにんをもって取り組んでいる」の肯定割合は、全て県の平均より5ポイント以上高い。クラスでの自分の存在意義を感じている児童が多い。

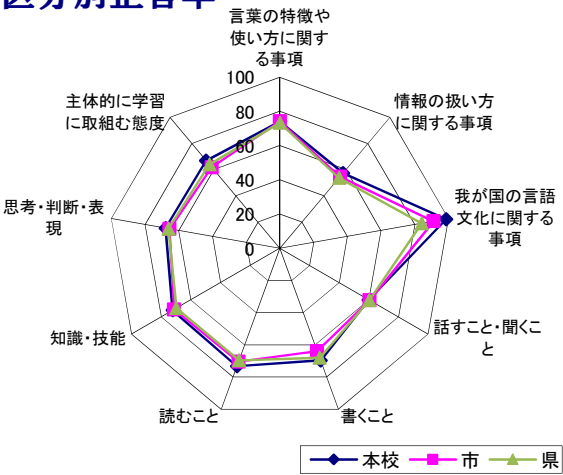
○「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」は11.7ポイント、「家の人と学習について話をしている」は6.7ポイント高い。

●家庭生活においては、「平日の1日あたりに映像を見る時間」が1時間以上2時間未満の児童が、県の平均より8ポイント高い。各家庭への啓発や児童への指導の必要性を感じた。

宇都宮市立陽東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	74.1	74.2	73.3
	情報の扱い方にに関する事項	57.5	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	98.6	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	60.0	60.6	60.4
	書くこと	69.6	63.8	68.0
観点	読むこと	73.2	70.4	69.6
	知識・技能	72.3	71.3	69.9
	思考・判断・表現	67.8	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	67.0	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

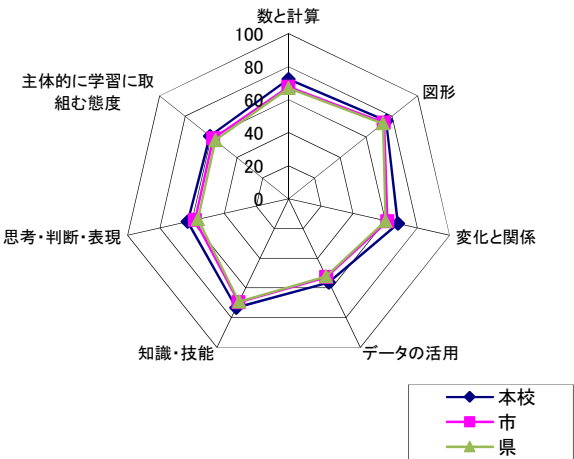
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○平均正答率は、県・市の平均とほぼ同じである。 ●漢字を書く問題によっては、県の平均を下回っているものがある。	・既習の漢字を使う場面を増やしていく中で、画の長さやはね、はらい等を意識して、正しく書けるよう指導を継続する。
情報の扱い方にに関する事項	○平均正答率は、県・市の平均を大きく上回っている。漢字辞書の使い方にに関する問題では、県の平均を9ポイントも上回っている。	・今後も学校や家庭で、積極的に漢字辞書を活用させていく。
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は、県・市の平均を大きく上回っている。	・スタンダードダイアリーを活用するなどして、今後もことわざに親しませていきたい。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は、県・市の平均とほぼ同じである。 ○話し手の伝えたいことを捉えたり、話し手の工夫を見出す問題は、よくできている。 ●話し手の伝えたいことを理解し、自分の考えをもつ問題では、課題がみられる。	・学校生活の様々な場面において、話を聞いて自分の考えをもち表現する活動を、意識的に増やしていく。
書くこと	○平均正答率は、県・市の平均を上回っている。 ○指定された長さで文章を書いたり、理由をもとに自分の考えを文章にしたりする問題は、よくできている。	・文章の構成、特に段落を意識した書き方の指導を、授業や自主学習の中に取り入れていく。
読むこと	○平均正答率は、県・市の平均を上回っている。 ○登場人物の気持ちや場面の变化を問う問題は、よくできている。 ●段落相互の関係を捉える問題は、県の平均より4ポイント近く下回っている。	・段落ごとの内容を理解した後、段落と段落の関係を考え、最後に文章全体の構成を図式化するなどして捉える、という活動を充実させていく。

宇都宮市立陽東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.5	67.8	67.0
	図形	75.7	73.9	73.1
	変化と関係	67.9	61.4	60.2
	データの活用	56.2	52.7	52.1
観点	知識・技能	73.2	69.7	69.2
	思考・判断・表現	62.7	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	60.9	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

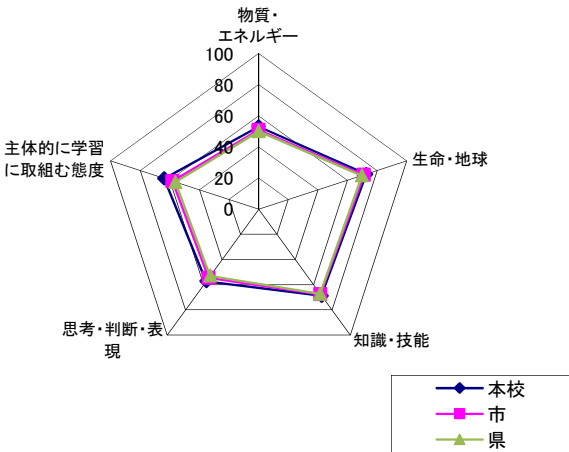
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、県・市の平均を上回っている。 ○桁の多い数や分数の計算において、県の平均を5ポイント以上上回っているものがある。 ●小数のかけ算や、余りのあるわり算の問題では、県の平均を下回っている。	・個別指導を充実させ、基礎学力を定着させる。 ・AIドリルを活用し、反復学習の徹底を図り、基礎的な計算力を身に付けさせる。
図形	○平均正答率は、県・市の平均を上回っている。 ○角の大きさの問題では、県の平均を10ポイント以上上回っているものがある。 ●およその面積を選ぶ問題では、県の平均を5ポイント以上下回っている。 ●作図の問題では、県の平均を下回っている。	・身近なものの長さや面積を、もっと実感として知る必要がある。そのために、児童が必要な大きさを測る活動を取り入れた授業を展開する。 ・コンパスや定規、分度器などの使い方を見直すと同時に、既定の長さや角の大きさになるよう、丁寧に作図させる。
変化と関係	○平均正答率は、県・市の平均を上回っている。 ○簡単な場合についての割合の問題では、県の平均を10ポイント以上上回っている。 ●伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める問題では、県の平均を下回っている。	・2つの数量の変わり方の表の見方を見直す。2つの量の変わり方における式の立て方、式を利用してもう一方の値を求める方法を、再度確認させる。
データの活用	○平均正答率は、県・市の平均を上回っている。 ○折れ線グラフと棒グラフを読み取る問題では、県の平均を10ポイント以上上回っている。 ●折れ線グラフの変わり方についての問題では、県の平均を5ポイント以上下回っている。	・資料を隅々までよく確認させる必要がある。 ・グラフや表の読み取りだけでなく、活用する問題を充実させ、応用力を身に付けられるようにする。

宇都宮市立陽東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	53.0	50.8	50.0
	生命・地球	72.6	71.1	69.8
観点	知識・技能	68.7	67.6	67.2
	思考・判断・表現	57.2	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	63.8	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は、県・市の平均を上回っている。 ○物の体積と力、温度の問題では、県の平均を5ポイント以上上回っているものが多い。 ●電気のはたらき、水のすがたの問題では、県の平均を5ポイント以上下回っているものがある。	・「直列つなぎ」という言葉が書けない児童が多いことから、実験や観察で使う用語を、再度確認させる必要がある。 ・実験や観察をする際にノートやワークシートを活用し、予想したことや結果について文章で書くことを通して、理解の定着を図る。
生命・地球	○平均正答率は、県・市の平均を上回っている。 ○1年間の動物のようす、植物の成長の分野では、ほとんどの問題で、県の平均を5ポイント以上上回っている。 ●月と星の問題では、県の平均を10ポイント以上下回っているものがある。	・実験や観察が困難な内容については、具体物や映像教材を活用し、理解を深める。 ・方位に関する事項は、再度復習させる。太陽や月の見える方位、動き方も確認させる。 ・身の回りに存在する多くの自然的現象や科学的事象について、学校や家庭など普段の生活の中で話題にあげたり、身近なものとして捉えたりできるようにする。

宇都宮市立陽東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習について、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」に肯定的に回答した児童の割合は市の平均を上回っている。

○「家で、学校の授業の予習をしている」と回答した児童の割合は60.9%で、県の平均を5ポイント以上上回っている。

●「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」と回答した児童の割合は、県や市の平均をやや下回っているが、学校でテストの返却の際に解説をしているためと思われる。家でも、さらに復習ができるとよい。

○平日の家庭学習の時間に関しては、1日当たり2時間以上勉強している児童は26.1%で、市の平均より8.9ポイント上回っている。また、土日に3時間以上勉強している児童の割合も、市の平均より7.1ポイント上回っている。

○学習塾に通っている児童も、県や市の平均より多く、その中で「学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容の勉強をしている」と回答した児童は県の平均を17.2ポイント上回っている。

●1か月の読書量は、「5冊以上読んでいる」と回答した児童の割合は、県や市の平均を5ポイント以上上回っているが、「1冊も読まない」と回答した児童が7.2%いるので、本に親しむよさを味わわせたり、読書を奨励する活動を続けていく必要がある。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」「友達の話や意見を最後まで聞くことができている」と回答した児童の割合は県の平均より上回っている。

●「グループなどでの話し合いに進んで参加している」「話し合うことを通じて、自分の考えを深めたりひろげたりすることができている」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と回答する児童の割合は、県の平均を下回っており、友達の考えは知りたいが、自分で発表することには自信がもてない様子がうかがえる。学校生活の様々な場面で、安心して友達とやり取りができるよう、支援の仕方を工夫していきたい。

●生活面においては、「毎日、朝食を食べている」という質問に対し「いいえ」と回答している児童や、「毎日、同じ時刻に寝ている」という質問に対し「いいえ」と回答している児童の割合が、県の平均より高いので、規則正しい生活と健康についての指導を継続していく。

宇都宮市立陽東小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・国語科における「書く」活動を含む言語活動の実践	・自分の考えをノートやワークシートに書く活動を日常的に取り入れ、お互いの意見交換に生かすことができよう、授業を工夫している。	・自分の意見を書く問題の正答率は県や市の平均正答率を上回っていたが、条件に合わせて書く問題に、やや課題が見られた。
・家庭学習の習慣化に向けた取り組み	・3～6年生では宿題のほかに自主学習ノートを利用した学習に取り組ませ、定期的に提出するよう指導している。	・「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」に肯定的に回答した児童の割合は、4.5年生ともに市の平均よりも高かった。「家で学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」についての肯定割合は、4年生で県の平均よりも4.7ポイント高かった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・算数の図形の領域において、4.5年生ともに作図の問題に課題が見られた。	・道具を使うことに、日常的に慣れさせる。	・コンパスや定規、分度器などの使い方を見直すと同時に、既定の長さや角の大きさになるように、丁寧に作図させる。